

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900048		
法人名	北寿産業株式会社		
事業所名	グループホームわかな		
所在地	夕張市若菜8番地25		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日	令和2年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事へ積極的参加、協力 ・外出行事が多数 ・料理のおいしさ ・開放感のある建物 ・手厚い健康管理・医療体制 ・ホーム内レク充実

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195900048-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夕張市の若菜地区にあるグループホームわかなは、地元企業が運営するグループホームです。馴染みの土地で安心して暮らしてもらうため、経営者の顔が見える事業所として設立し、2019年9月に開設3周年を迎えました。診療所を改築した1ユニット9名の事業所は、菜園、駐車場など広い敷地を有しています。建物内は明るく清潔です。居間には大きな窓があり、芝生や菜園を眺めることができます。地域とのつながりが深く、市内のイベントへの参加や、近隣の保育園や学校の生徒との交流があります。利用者は職員と一緒に、近隣の商店や理美容室に歩いていくなど、日常的に外出する機会があります。運営推進会議には役所や消防だけでなく、近所の薬局なども参加し、地域の中で認知症の高齢者が暮らす場として理解を広げています。最期まで住み慣れた場所でのという希望を受け看取りにも取り組んでおり、事業所の看護師と往診医との連携を行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年2月21日

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすいところ数か所に理念を掲示している。また採用時研修の際に理念の説明とその配布	事業所の設立時に作成した理念は、毎月の職員会議の際に再確認し職員間で共有しています。日々のケアの中で迷った時には常に理念に立ち返り、理念に込めた思いに沿った介護方法を選択をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動・商工会活動に積極的に参加している。またホーム行事にも来ていただいている。町内会役員をしている。	事業所として町内会活動や商工会活動に参加しています。地域とのつながりが深く、近隣の保育所や学校、夕張市社会福祉協議会の生活支援サポーターとの交流など、利用者は地域の幅広い年代と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内で認知症サポーター養成研修を行った。その際地域の方を誘い参加していただいた。また町内会イベントの際には敷地を駐車場として提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見や情報をサービス向上に活かすよう努めている。	会議には行政、薬局、利用者、家族等が参加しています。事業所の現状を写真入りの資料や動画で伝えています。出席者からも感染症対策や火災時対応、地域のイベントなどの助言や情報提供があり、事業所運営に取り入れています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議によって情報交換をしている。また市役所への文書送付の際は挨拶、情報交換を兼ねて市役所担当者へ手渡ししている	月に数回、地域包括支援センターの職員が事業所が訪問しています。その際に事業所から入居者の現状を伝えています。また、管理者が市役所に出向く際には、市の担当者と情報交換を行い、関係の継続に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束についての研修会を開催している。また外部研修にも積極的に参加している。	身体拘束の指針を定め、身体拘束廃止委員会を定期的に開催しています。身体拘束のグレーゾーンの対応は、毎月の職員会議で検討しています。管理者や職員が外部研修に参加した際は伝達研修を行い、全職員が研修内容を共有するよう努めています。玄関は夜間一名体制の時のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の虐待防止研修会に参加し、虐待についての知識を身につけ、その防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	夕張市が主催する成年後見制度の研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って説明している。特に見取りについての対応方針などは詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には、要望や意見などあれば言ってもらえるよう声掛けをしている。また運営推進会議などで入居者の方へ意見を言っていたり配慮している。また意見・要望があれば運営に反映させるよう努めている。	日常の利用者の言葉を受けとめ、お茶の時間などの話題からも意見や要望の把握に努めています。家族が来訪した際には、職員から声を掛け、話しやすい環境づくりに努めています。得られた意見や要望は職員会議で検討し、運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員が必要に応じて個別に意見を言える場を設けている。 また朝の打ち合わせや月に一度の職員会議でも職員全員が意見を話せる場を設けている。	管理者は年1回の職員面談の時だけでなく、いつでも職員の意見を聞くように心がけています。職員からは、効率的な仕事の流れや経費削減などの意見が出され、毎月の職員会議で検討し、反映しています。	職員意見の活用は、利用者に必要な支援を柔軟に行うことと共に、職員が運営に参画し共に事業所を作り上げていくことで離職防止にもつながる取り組みです。職員アンケートや意見の聴取の機会など、これまで以上に職員が意見を出しやすい工夫をすることが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日勤務しており職員の努力や勤務実績、勤務状況を把握している。 職場環境のとしては、資格取得に関して積極的に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の職員会議内で短時間ではあるが毎度研修を設けてスキルアップを目指している。また事業所外で行われる研修にはなるべく多くの職員が受講できるように計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の同業者の研修会には交流も兼ね毎度出席している。また市外のグループホーム主催の研修会も積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人の事前面談を通して、ご本人の要望を聞き、今までの生活を極力変えなく新しい生活に慣れていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し要望に沿えるよう努めている。その際ご要望に応えられないことは丁寧に説明し理解を頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで他のサービスを必要としている方の相談はないが今後そのようなケースがあれば他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできることはしてもらえよう場面の設定をしてはいるが、どうしても支援する側とされる側という関係ではある「共に過ごし、学び、支えよう」といった場面をより多くする努力を要する。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族来所の際、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。また月に1度生活の様子や健康状態を文書で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にあった人間関係を尊重し、友人や知人に会いに行くなど積極的な支援を行っている。	入居前に利用していた床屋や美容院への送迎や、近隣の商店に職員と一緒に外出するなど、馴染みの関係の継続を支援しています。外出が難しくなっている利用者のために、利用者の友人を事業所行事に招待しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について情報連携を毎日している。人間関係が円滑に進めるよう日々注意深く見守り時には調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された家族の方にも行事に招待するなど継続的な関係ができるよう心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や意向の把握に努めており、スタッフ間で共有している。意思疎通の困難な方は家族から情報を得ている。	入浴時などの利用者と職員二人でゆっくり話せる機会に思いを聞き、送り書で情報を共有しています。また表情を読みとる、発する言葉の意味を職員が話し合うなど、思いの把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、ご家族や居宅支援事業所の担当者から生活歴や日常の生活スタイルを聞いている。また本人からも聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常支援の中で、入居者一人一人の生活リズムを把握し、職員で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	頻繁にお会いできる家族には要望を聞き取り介護計画に反映している。職員全体のケア会議を介護計画に反映するようにしている。	介護計画は3ヵ月に1度見直しをしています。職員全員でモニタリングを行い、利用者や家族の要望を踏まえ会議で検討し、計画策定しています。利用者の心身の状況に合わせ、計画を柔軟に変更しています。計画の内容は、支援する際、職員による差が出ないように具体的に記載するようにしています。	介護計画の作成には、面会や連絡の頻度が少ない利用者の家族等についても、意見や要望を引き出す取り組みが必要です。家族等暮らし方や介護の希望などを踏まえた計画とするための工夫を行っていくことが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時間ごとのご本人の様子やケアの実践、エピソード等を個別記録に記入している。それらの記録を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じて、必要な支援は柔軟に対応している。またご家族が宿泊できる体制や備品等を用意している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が充実して地域での生活を続けられるよう地域のイベントなどに積極的に参加し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。特に希望がない利用者の方には協力医療機関の訪問診療を利用させていただいてかかりつけ医になって頂いている。また市外への通院も同行している。	毎週、総合診療科の医師の往診があります。事業所の看護師が、利用者の日々の体調の管理をしています。利用者の体調に変化がある時は往診医に連絡を取り、状態を説明し指示を受けています。その他病院への通院は家族対応が基本ですが、必要に応じて職員が対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、体調や些細な表情の変化など見逃さないようにし、早期発見に取り組んでいる。また変化等に気づいたことがあればかかりつけ医に報告し適切な医療につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援状況に関する情報を医療機関に提供し、スムーズな看護(医療)へとつなげている。必要に応じて買い物等を行い病院まで届けている。また家族とも回復状況等情報交換をしながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化している入居者は、家族の意向を十分に聞き取り、緊急時の対応等、職員全員で共有しながら支援をしている。	入居時に重度化指針の説明を行い、本人や家族の意向を確認しています。体調の変化に合わせて、意向の再確認をしています。終末期には家族と医師、施設長で看取りの方針を確認します。利用者のわずかな変化も職員間で共有し、家族との連絡を取り対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で、応急手当や蘇生術の研修を実施したが、現在受講していない職員も数名いる。再度その研修の必要性を感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。また非常食、非常時飲料水を用意している。	消防立ち合いの元、年2回の日中想定避難訓練を実施しています。訓練にはその日に出勤となっている職員と利用者が参加し、屋外までの避難を行っています。火災報知器と連動し、職員の携帯電話に連絡が入るシステムを導入し、勤務外の職員も参集することになっています。	夜間、夜間想定避難訓練の実施や、地域住民の参加及び具体的な救援方法の検討が期待されます。職員が満遍なく訓練に参加するとともに災害対応計画を立案し、計画に沿った災害時用の備品と備蓄の検討が望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人格を尊重し敬意を払った声掛けをしているが多々親し気な声掛けになることがある。研修や会議などを通し学んでいきたい。	日々のケアで、「利用者に敬意を払う」、「その人が大事にしている事を大切に」という意識を全職員で共有しています。馴れ馴れしい声掛けなど、職員の対応に問題がある場合は、個別に注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話を通して、本人の思いや希望を表すことができるよう支援している。また押し付けではなく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。その時の本人の気持ちを尊重して、可能な限り個性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の生活習慣に合わせて支援をし、日ごろからも清潔感を損なわないようおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また近所の理美容院とも連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	春は山菜、秋はきのこなど旬の食材を使った献立や季節行事にちなんだ献立を作って食事を楽しんでいただける工夫をしている。	料理の準備や下膳、食器洗いなど、利用者がそれぞれできる事を行っています。山菜の皮むきや節分の太巻き作りなど、イベント時は作る過程も楽しんでいます。献立は利用者の要望を踏まえて職員が作成しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量や食事量の記録をしている。また利用者の咀嚼力に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人ひとりに声掛けをし、口腔ケアをしてもらい、自力では不十分な方には職員が介助し習慣になるよう支援している。また、週1度訪問歯科診療を利用し専門的な口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意がない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	利用者ごとに排泄の記録をつけ、失敗がないよう、トイレへの誘導を行っています。また、失禁がある場合もパッドなど、個別に最適なものを工夫して、不快感がないように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排便間隔を職員が把握し毎日テレビ体操をし腸の運動をしている。便秘気味の利用者には牛乳やヨーグルトを提供している。またそれでも排便がない場合は看護師が医師と相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な入浴日は決まっています。見守りだけ必要な方は好きな時間に入浴していただいています。その際利用者に配慮しながら声掛け見守りをしています。	基本週2回、午前中の入浴です。見守り、シャワーの手伝いなど、利用者の状況に合わせた介助を行っています。拒否がある時は対応する職員やタイミングを変えるなど工夫しますが、無理強いせず、入浴日を変える対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したいときは自室に戻ったり、リビングのソファで横になって頂いたりと自由にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し薬の提供職員を記録する仕組みをとり誤薬、飲み忘れがないようにしているが、薬の目的や副作用の周知などは皆が知っているわけではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内や自室の掃除は日常的に職員と一緒にやっている。一人ひとりの状態に合わせ洗濯物たたみ、食事の準備など生活に張り合いを持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は可能な限り利用者の行きたい場所へ外出できるよう支援している。花見、お祭り、コンサート等四季の行事や各種イベントを企画し外出の機会を設けている。	職員と一緒に、近所の行きつけの床屋や美容室に出かけたり、近くの商店への買い物やおやつを買出しに行くなど、利用者ごとに個別に外出を支援しています。地域とのつながりが深く、市内で行われる各種のイベントに外出する機会を多く設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが利用者ご本人に金銭管理をしてもらい社会性の維持に取り組んでいる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話または葉書等をかけるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節感を取り入れるため季節ごとの飾りつけをしたり、お花を飾ったりしている。また特に清潔を保つよう努力している。	室温は22度前後、40～60%の湿度を心掛けています。利用者が毎朝の拭き掃除を手伝っています。広い居間のテレビやソファは、皆が快適に過ごせるよう場所や配置を工夫しています。日中は大半の利用者が居間でレクなどを行って過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内各所にソファを置き気の合った利用者同士おしゃべりをしたり思い思い過ごしていただける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスなど使い慣れた物を使っていたいただき居心地の良さを感じてもらえるようにしている。また写真やお花を飾るなど居心地良く過ごしていただけるよう支援している	居室は広く、空間にゆとりがあり、大きな窓があります。利用者が自室として感じられるよう、入居前から使っていた家具などの持ち込みの制限を設けていません。作り付けの収納があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置している。車椅子の利用者は可能な限り自力で移動し自立した生活ができるよう職員が見守りながら支援している。		